

# 希望坂(北中だより)

第22号 令和3年3月12日

みやき町立北茂安中学校 校長 森田 直樹

学校教育目標

「知性・感性・耐性」を  
自らたかめる生徒の育成

〒849-0113 みやき町大字東尾 4435

<https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-j/>



## ◆◇卒業生の旅立ち 3月6日◆◇

第74回卒業証書授与式は、卒業生87名と保護者、2年生の生徒、教育委員会2名、職員で挙行了しました。時間短縮のため式辞・送辞・答辞は昨年より短くなりましたが、出席者からは心こもった温かい式だったとの感想をいただきました。昨年と同じく式歌を最後にもってきて感染防止に留意をした式を行いました。卒業生の美しい歌声が参加者みんなの胸を熱くしました。式辞では、卒業生に以下のような話をしました。

卒業生の皆さん、「ご卒業おめでとうございます。」

皆さんの授業風景を最初に見たときは、発問に対する反応の良さやグループ学習の活発さに頼もしさを感じたものでした。今年度は、新型コロナウイルスの関係でいろんな行事に苦心する一年でした。その中でも皆さんは、自分の活躍の場を見つけ、伸び伸びと活動してきました。コロナ禍を逆手に取った取り組みもありました。たとえば、国語の授業で、GOTO キャンペーンを題材にした議論をしていました。根拠を示して自分の考えをぶつけること、相手の意見をよく聞き、別の視点からの批評や検証を試みることなどは、これから生きる皆さんにとって、とても大切なことだと思いました。

文化発表会の劇では、コロナ禍での家庭生活や学校生活を描き、赤裸々な思いを表現していました。劇の題名は「We will never yield to COVID19」。「コロナなんかには負けてたまるか」という思いの詰まった内容でした。「知性・感性・耐性を自らたかめる」ことを追究する私たちとしては、簡単にへこたれない皆さんのたくましい姿は、まさしく「耐性」だと感動しました。

たくましいと言えば、バス旅行で行った城島高原の、あの恐ろしいジェットコースターに、何度も手を振りながら乗る君たちは、称賛に値するものでした。

さて、佐賀の七賢人といえば誰を思い浮かべるでしょうか。歴史に詳しい人が真っ先に挙げるのが「鍋島直正公」です。幕末の佐賀藩主として欧米列強への備えにいち早く取り掛かり、学問を奨励し広く藩校で学ばせたとされています。

書物を読みますと、藩の財政改革に積極的に取り組む傍らで、台風で倒れたままの家に住む人々を見て(今で言う)臨時給付金を支給しています。庶民の暮らしの大切さを知る人物だったのです。また、医療が大事だと考え「医学寮」を設置しました。後の「好生館」です。

本日なぜ直正公の話をしたのかというと、藩主になったのが若干17歳の時だったと知ったからです。10代での藩主だったため、藩の改革は、当初、家臣の反対にあってうまくいきませんでした。しかし、自分の信念を曲げず藩のため、今で言えば佐賀県のために尽力したのです。だからこそ、今なお賢人と呼ばれるのでしょう。

先日の全校集会で、私は「これからの新しい時代に長く生きることが出来る中学生を、うらやましく思います。」と述べました。「不透明な時代」と言われますが、それは逆に言えば、可能性に満ちた「ワクワクする時代」だからです。AI や IoT が身近になり、これまでの仕事がなくなりますが、新しい仕事を生み出す時代です。北茂安が生んだ「起業の神様」市村清氏がご存命ならば、新しい会社をいくつも立てられるでしょう。

全ての人間が直正公や市村氏になれるわけではありませんが、皆さんも、若い感性を大事にし、志をもって、これからの「新しい社会」ソサイエティ5.0を生き、自己実現を図ってください。その時に、この北茂安中での経験や、培った「知性・感性・耐性」はきっと役に立つことでしょう。



## ◆◆キャリア教育の取組2◆◆

1年生は「職業調べ」に続いて、3月4日に「職業人に学ぶ」講座を行いました。消防士、元自衛官、ツアーコンダクター、保育士、歯科技工士、手話通訳士、ITエンジニア、元プロバスケットボールプレイヤーといった多彩な8名の職業人が、仕事の内容や仕事と学びのつながりなどについて丁寧に説明してくださいました。

生徒は事前に4つの講座を選択して、聴講しました。司会進行や講師の案内も生徒自らが行き、良い経験をしているなど思いました。20分の講座の後には、質疑の時間が設けられ、「子どもが好きで保育士になられたと思いますが、叱るときにかわいそうに感じて躊躇してしまうことはありますか。」などと、具体的な質問が寄せられていました。以下、感想の一部を紹介します。

「仕事のつらいこと、やりがいなどはインターネットで見ればはいたけど、実際にその人の口からきいたら、画面で見るよりも何倍も頭に入ってきて、びっくりしました。消防士だったら人の命を助けられた時が一番やりがいがあると言われ、かっこいいなと思いました。この体験をこれからの夢探しや学校生活に活かしていきたいと思いました。」

後の学級活動では、生徒一人ひとりが講師の先生方にむけてお礼の手紙を書いていた。

2年生は「高校調べ」に続いて、3月3日に「高校生に学ぶ」講座を行いました。三養基高校、神埼清明高校、鳥栖工業高校、鳥栖商業高校の4校の1年生が来てくれました。先輩たちがローテーションで全クラスに回っての講座でした。先輩たちの10分程度の説明の後、「テストはどんな感じですか。」「中学校と学校行事は違いますか。」「帰宅時間は何時頃になりますか。」といった質問が寄せられていました。以下、感想の一部を紹介します。

「三養基高校では、中学校と変わったことがたくさんあった。授業時間が増えたり、外国の地域や文化を学んだりすることがあった。大学や専門学校を目指すために勉強をしていることが学べた。」

「神埼清明高校では、健康スポーツ系列、みどり系列、食品科学系列、情報ビジネス系列、生活福祉系列、人文系列という6つの系列があり、資格は合格するまで受けることができるとわかりました。」

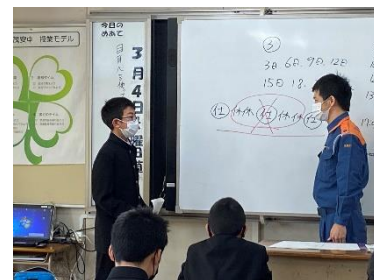
「鳥栖商業高校は、今の私の志望校です。たくさん検定を受けられるけど、その勉強が大変なこと、パソコンを使う頻度が高くなるのがわかりました。」

「鳥栖工業高校では、いろんな資格が取得でき、資格を取るために授業とは別の補習があるので大変だと感じた。数学が大事だということが学べた。」

中学校の勉強をしっかりやっておくことが大事だということが再確認できた場にもなりました。趣旨をご理解いただいた各高校の校長先生方、出席してくれた卒業生の皆さん、ご協力ありがとうございました。

## ◆◆クラスマッチで学級の和◆◆

1年生は3月3日に、バレーボールとサッカーでクラスマッチを行いました。2年生は3月4日に、バスケットボールとペタンクとサッカーで行いました。誰もが参加できるようにルールが工夫されている競技もありました。戦いの中にも和気あいあいとした雰囲気が漂っていました。



## ◆◆今後の予定◆◆

<3月>

12日(金) 高校合格者登校日

18日(木) 各部委員会

23日(火) 生徒会集会

24日(水) 修了式・辞任式・給食最終日